

令和4年度 加古川市教育委員会不登校対策推進委員会の実施状況

1 第5回加古川市教育委員会不登校対策推進委員会について

- 令和5年2月24日（金）
第5回加古川市教育委員会不登校対策推進委員会を市役所北館にて実施
- 加古川市内3中学校区ユニットによる実践事例発表
 - ・学校と関係機関（教育相談センター・わかば教室）と家庭が連携して、本人・家庭への支援、ケース会議を行った。関係機関からの助言や本人理解の重要性について再認識できた。
 - ・学年を超えた複数の教員での対応や、年度替わりの情報共有の徹底等、学校全体での支援を行うことができた。
 - ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーから保護者に対しての子どもへの関わり方の助言等、本人はもちろん、保護者への働きかけも行った。
- 助言及び講評 兵庫大学健康科学部健康システム学科 講師 細川愛美 氏

2 加古川市教育委員会不登校対策推進委員会について

- 令和4年度の活動状況

回	月/日	会場	内容
1	5/24(火)	青少年女性センター	・令和4年度の不登校対策の推進について
2	6/20(月)	市民会館大ホール	(兼) 子どもの不登校を考えるつどい ・演題 「自分らしく生きるということー体験から学ぶ子ども達ー」 講師 NPO法人生涯学習サポート兵庫 理事長 山崎 清治 氏
3	9月	各中学校 (中学校区ユニット単位)	①ユニット別不登校対策会議（情報交換） ・不登校、もしくは不登校傾向のある児童生徒の現状 ・保健室、相談室、別室等の利用状況
4	11月	各中学校 (中学校区ユニット単位)	①ユニット別不登校対策会議（情報交換） ・不登校、もしくは不登校傾向のある児童生徒の現状 ・保健室、相談室、別室等の利用状況 ・Chromebook を活用した不登校対策の状況
5	2/24(金)	市役所北館 (旧青少年女性センター)	3中学校区ユニットによる実践事例発表

3 成果と課題

(1) 不登校対策についての情報交換

第5回不登校対策推進委員会では、2年ぶりに担当者が一堂に会することができた。小中の連携はもとより、小学校間、中学校間の連携も図ることができた。また、中学校区ユニット単位での会議を複数回対面で開催したことにより、担当者同士の連携も深まり、対象児童生徒についての対応や支援策の協議がより活発に行われた。一部のユニットでは、スクールソーシャルワーカーやメンタルサポーターの参加により、多面的な視点からの支援策が話し合われた。今後も可能な限り、関係する職員の参加を促していくことが課題である。

(2) 不登校についての研修及び活動

第2回不登校対策推進委員会では、市民、保護者、教職員合計296人が参加し、成功や失敗にとられない体験活動の重要性や、子どもたちの主体的な行動を促す教師の支援などについて多くの学びを得た。日々多忙な学校現場でも子どもの成長の可能性を見逃さず、適切な支援を行える環境づくりの必要性を訴えていくことが課題である。

(3) 不登校の未然防止、早期発見・早期対応に向けて

中学校区ユニットごとに、不登校傾向にある児童生徒の具体的な状況や各学校における支援の現状について情報共有をおこなった。兄弟・姉妹間の情報共有を行うことで、家庭の状況などについても共通理解を図ることができた。今後は、各学校の具体的な取組を共有する不登校の未然防止に取り組むためにも、成功事例の共有の場を設定していくことが課題である。

令和4年度 メンタルサポーターの活動状況【中学校】

1 別室利用状況（のべ人数）

	令和3年度	令和4年度
合計利用者数	10,793人	10,515人
一校当たり月のべ人数平均	75.0人	73.0人

2 家庭訪問実施状況（のべ人数）

中学校 学年	令和3年度		令和4年度	
	合計	一校当たり月平均	合計	一校当たり月平均
1年	160人	1.1人	58人	0.4人
2年	138人	1.0人	131人	0.9人
3年	196人	1.4人	204人	1.4人
合計	494人	3.4人	393人	2.7人

3 不登校生徒及び不登校傾向にある生徒の改善状況（のべ人数）

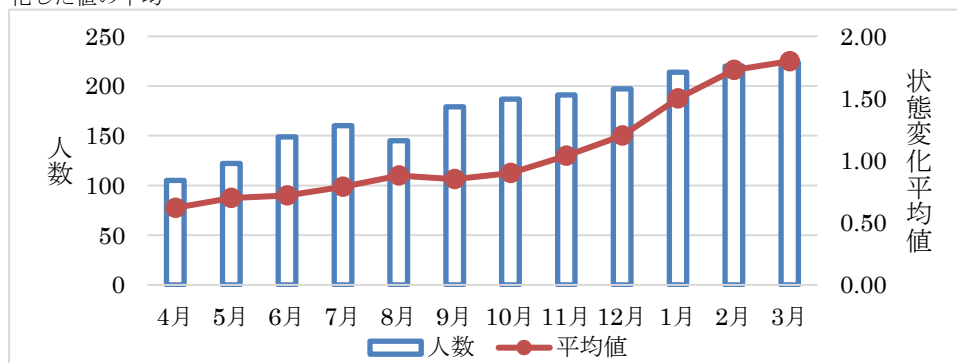
改善内容	令和4年度	
	合計	月平均
不登校傾向にある生徒が、主に教室で過ごせるようになった。	445人	37.1人
” 主に別室で過ごせるようになった。	1162人	96.83人
” 主に保健室や玄関先等に登校できるようになった。	129人	10.75人
” 主に放課後登校できるようになった。	83人	6.92人
” 主に関係機関等で過ごせるようになった。	219人	18.25人
合計	2,038人	169.85人

4 メンタルサポーターの支援による生徒の状態変化

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数(人)	105	122	149	160	145	179	187	191	197	214	220	226
平均値	0.62	0.70	0.72	0.79	0.88	0.85	0.90	1.04	1.20	1.50	1.73	1.80

※人数：メンタルサポーターがその月に支援した実数。

※平均値：前月と比較した生徒の状態をメンタルサポーターの見立てで「好転(+1)」「退転(-1)」「維持(±0)」で数値化した値の平均



5 成果と課題

- メンタルサポーターの支援活動は、担任や不登校担当教員とは異なる立場からのアプローチであるため、不登校生徒にとっての心の拠り所となっている。そのため、メンタルサポーターは、学校組織になくてもならない存在となっている。
- 各学校のメンタルサポーターだけで解決が難しい問題については、学校内での組織対応、メンタルサポーター同士の情報共有、教育相談センターとの連携によって解決を図ることができている。
- 中学校の別室運営については、不登校傾向のある生徒だけでなく、学校不適応を起こしている生徒の心の安定の場として環境を整えている。常時学校に勤務するメンタルサポーターが中心となって、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と当該生徒のための情報交換を行い、生徒に適した支援をすることができた。しかしながら、別室利用生徒の増加に伴い、別室に入りづらくなる生徒が出てきたり、活動スペースが手狭になったりと、対応に苦慮している学校もある。また、学習への適応が困難な生徒も増加しており、多様化する困り感に寄り添い、個に応じた支援を行うことが不可欠である。

令和4年度 メンタルサポーターの活動状況【小学校】

1 別室利用状況（のべ人数）

	令和3年度	令和4年度
合計利用者数		1,318人
一校当たり月のべ人数平均		39.9人

2 家庭訪問実施状況（のべ人数）

小学校 学年	令和3年度		令和4年度	
	合計	一校当たり月平均	合計	一校当たり月平均
1年			0人	0人
2年			0人	0人
3年			4人	0.1人
4年			0人	0人
5年			8人	0.3人
6年			21人	0.7人
合計			33人	1.1人

3 不登校児童及び不登校傾向にある児童の改善状況（のべ人数）

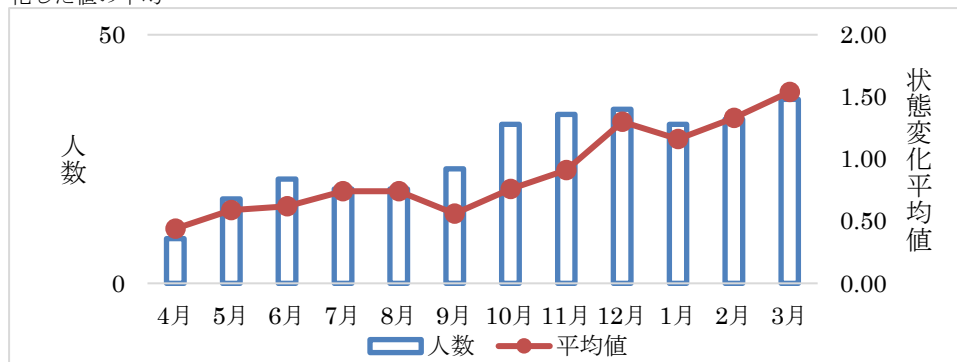
改善内容	令和4年度	
	合計	月平均
不登校傾向にある児童が、主に教室で過ごせるようになった。	142人	12.9人
” 主に別室で過ごせるようになった。	76人	6.9人
” 主に保健室や玄関先等に登校できるようになった。	19人	1.7人
” 主に放課後登校できるようになった。	32人	2.9人
” 主に関係機関等で過ごせるようになった。	76人	6.9人
合計	345人	31.3人

4 メンタルサポーターの支援による児童の状態変化

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数(人)	9	17	21	19		23	32	34	35	32	33	37
平均値	0.44	0.59	0.62	0.74		0.56	0.76	0.91	1.3	1.16	1.33	1.54

※人数：メンタルサポーターがその月に支援した実数。

※平均値：前月と比較した児童の状態をメンタルサポーターの見立てで「好転（+1）」「退転（-1）」「維持（±0）」で数値化した値の平均



5 成果と課題

- メンタルサポーターの支援活動は、担任や不登校担当とは異なる立場からのアプローチであるため、不登校児童にとって心の拠り所となっている。そのため、メンタルサポーターは、学校組織になくてはならない存在となっている。
- 小学校のメンタルサポーターの配置については今年度からの取組であったが、認識も徐々に広がり、教師や保護者と連携・相談しながら活動することができるようになった。
- 中学校での別室運営に比べて、長時間にわたってメンタルサポーターが児童と一対一で活動することが多く、活動内容の計画等に工夫が必要である。今後は、多くの教員が別室を利用する児童に関われるような体制づくりが必要である。